

HOTLINE 2007



平成19年9月末 経営情報開示資料



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫

飯田信用金庫と 地 域 社 会

内国為替
外国為替
証券業務
保険窓口販売業務
エレクトロニックバンキング
その他各種サービス

各種金融 サービス

その他の 資産運用

有価証券 1,452億円
預け金 630億円

お客さまからお預かりした
ご預金は地域の個人のお客
さまや地元事業者の方々の
さまざまな資金需要にお応
えし、貸出金としてお使いいた
だいております。

(注2)
預金の残高に対する
貸出金の残高の割合
を預貸率といいます。

貸出金

2,480億円
預貸率 60.3%
(注2)

飯田信用金庫

役職員数：341人
店 舗 数：24店舗
(平成19年9月末現在)

地域をなによ 大切に考え、 ともに歩み続け

当金庫は飯田下伊那を営業区域として金融サービスを提
みなさまからお預けいただいたご預金は、地元企業の事業活
当地域にお住まいの方が住宅や自動車をご購入される際の
資としてご利用いただいております。

また、飯田下伊那に24店舗と29カ所のキャッシュコーナ
まのお近くでさまざまな機能サービスを提供しており、金融
まらず企業経営・人材育成・文化活動などを支援しているほ
積極的な取り組みを行っております。

預金・積金

4,112億円

地域貢献

経営支援・人材育成支援

各種相談業務
経済講演会の開催
経営者育成支援
ビジネスマッチング・サービス
M&A情報の提供
経営情報の提供
インターンシップの受け入れ

文化・交流支援

メセナ活動
地域文化の情報発信
ロビー展
年金友の会、各店親睦団体・
ゴルフ会などのサークル活動

環境への取り組み

ISO14001の認証取得
金融を通じての環境改善活動

地域行事への参加 など

お客さま／会員

(注1)

会員数：28,015
(総代数：117人)

(注1)

飯田信用金庫の出資を
お持ちいただいた方が
会員となります。

出資金

11億円

地域のみなさまからお預けいただいたご預金の内、4分の3は個人の方からのものであり、地元企業の事業活動のための資金や、当地域にお住まいの方が住宅や自動車を購入される際の資金などへ、貸出金としてご利用いただいております。



ごあいさつ

平素は私ども飯田信用金庫をご愛顧
たまわり、誠にありがとうございます。心より
厚くお礼申し上げます。

みなさまがたに平成19年度上半期の
業績をご理解いただくために、経営情報
開示資料を作成しました。本冊子をご高覧
いただき、当金庫の現状の姿をご賢察い
ただければ幸いです。

今後も飯田信用金庫は、地域社会発展の
ために努力していく所存でございますので、
みなさまがたには、今後とも変わらぬご愛顧
をたまわりますようお願い申し上げます。

理事長 池田 征人

■各種計数は平成19年9月末の実績によります。
なお、仮決算のため計数等につきましては会計
監査法人の監査を受けておりません。また、単体
の実績となります。
■記載の計数は単位未満を切り捨てて表示して
おります。

データ編

預金・貸出金の状況

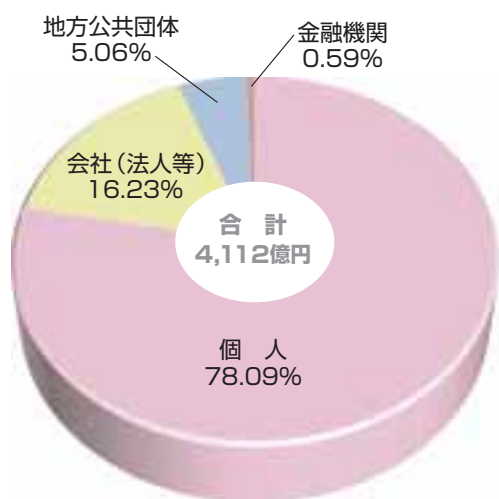
預金は、「信濃グランセローズ応援定期預金」と「アップるポイント期日指定定期預金」の発売により、個人預金は順調に増加したものの、法人預金が減少したことから、平成18年9月末比7億46百万円の増加にとどまり、4,112億円となりました。

貸出金については、住宅ローンを中心とした個人向け貸出金は増加したものの、法人向け貸出金が減少したことから、平成18年9月末比3億33百万円減少し、2,480億18百万円となりました。

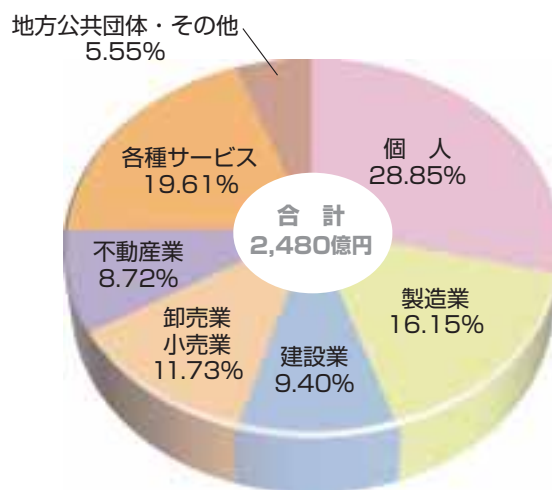
(単位：百万円、%)

	平成18年9月末	平成19年9月末	増減額	増減率
預 金	410,454	411,200	746	0.18
貸 出 金	248,352	248,018	△333	△0.13

(注) 各期末とも譲渡性預金残高はありません。



預金者別構成比
平成19年9月末



貸出先別構成比
平成19年9月末

(注) 残高には当座貸越を含みます。

損益の状況

短期金利の上昇により貸出金利息収入は増加しましたが、預金利息の増加が貸出金利息の増加を上回ったことに加え、一般貸倒引当金の繰入額が前年同期比増加したこと等により、業務純益は前年同期を3億64百万円下回る17億49百万円となりました。

一方、個別貸倒引当金繰入額の減少により、経常利益は前年同期比2億円の減少にとどまり9億95百万円となりました。

また、法人税等の減少に伴い、当期純利益は前年同期比21百万円減少の7億21百万円となり、おおむね前年同期並みの水準を維持することができました。

(単位：百万円)

	平成18年9月末	平成19年9月末
業 務 純 益	2,113	1,749
経 常 利 益	1,195	995
当期純利益	742	721

金融再生法開示債権

平成19年9月末の金融再生法上の不良債権額は、平成18年9月末に比べ「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」で1億40百万円増加しましたが、「危険債権」で5億19百万円、「要管理債権」で11億58百万円減少した結果、合計では15億37百万円減少し、306億円となりました。これにより、不良債権比率は平成18年9月末より0.56ポイント低下し、12.16%となっております。

(単位：百万円、%、ポイント)

区 分	平成18年9月末		平成19年9月末		増 減	
	残 高	構成比	残 高	構成比	残 高	構成比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,097	2.81	7,237	2.87	140	0.06
危 険 債 権	18,293	7.24	17,774	7.06	△ 519	△ 0.17
要 管 理 債 権	6,747	2.67	5,588	2.22	△ 1,158	△ 0.45
金融再生法上の不良債権 合計	32,138	12.73	30,600	12.16	△ 1,537	△ 0.56
正 常 債 権	220,277	87.26	220,882	87.83	604	0.56
総 与 信 残 高	252,416	100.00	251,483	100.00	△ 933	0.00

部分直接償却…実施しておりません。 【総与信残高】＝貸出金＋債務保証＋未収利息＋貸付関連仮払金

(注)

1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3カ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

信用リスクに関する業種別のエクスポージャー

(単位：百万円)

業種区分 エクスポージャー区分	貸出金、オフ・バランス取引		債 券		店頭デリバティブ 取引		三月以上延滞エクスポージャー	
	平成19年3月末	平成19年9月末	平成19年3月末	平成19年9月末	平成19年3月末	平成19年9月末	平成19年3月末	平成19年9月末
製 造 業	41,248	41,671	15,919	13,643	—	—	274	221
農 業	1,299	1,210	—	—	—	—	112	110
林 業	761	835	—	—	—	—	—	32
漁 業	96	93	—	—	—	—	—	—
鉱 業	190	185	—	—	—	—	—	—
建 設 業	27,845	26,411	1,232	1,231	—	—	849	1,313
電気・ガス・熱供給・水道業	10	—	1,962	2,061	—	—	—	—
情 報 通 信 業	720	497	605	—	—	—	—	—
運 輸 業	3,372	3,283	6,251	6,185	—	—	30	27
卸売業・小売業	31,227	30,428	3,970	3,656	—	—	415	1,036
金 融 ・ 保 険 業	1,142	1,138	17,527	17,732	—	—	—	—
不 動 産 業	24,347	23,122	1,111	712	—	—	992	814
各 種 サ ー ビ ス	53,243	53,303	—	—	—	—	1,085	1,361
国・地方公共団体等	8,052	7,360	59,876	66,491	—	—	—	—
個 人	61,472	61,919	—	—	—	—	257	455
業 種 別 合 計	255,030	251,462	108,455	111,715	—	—	4,018	5,374

(注) 1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除く。

2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャーのことです。

有価証券の時価情報

平成19年9月末の有価証券残高は、国債及び投資信託等を中心に残高を積み上げたことにより、平成18年9月末比21億96百万円増加して1,452億37百万円となりました。（時価ベース）

また、平成18年度後半の株価上昇時において株式等売却益を計上したことにより、株式の評価益は若干減少しましたが、債券及び投資信託の評価益が増加したことにより、有価証券全体の評価益は前年同期比2億64百万円増加した75億14百万円となりました。なお、当金庫ではサブプライム関連商品は一切保有しておりません。

（単位：百万円）

保有目的（種類）	平成18年9月末					平成19年9月末				
	帳簿価額	時 価	評価差額	うち益	うち損	帳簿価額	時 価	評価差額	うち益	うち損
売買目的の債券	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
満期保有目的の債券	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
子会社・関連会社株式	24	24	－	－	－	24	24	－	－	－
その他有価証券	135,765	143,016	7,250	8,243	992	137,698	145,212	7,514	8,364	850
うち 株 式	5,646	9,130	3,484	3,547	63	5,655	8,931	3,275	3,378	103
うち 債 券	111,715	112,001	286	985	699	111,125	111,714	589	1,002	412
国 債	38,429	38,503	74	195	121	43,427	43,766	339	382	43
地 方 債	7,469	7,427	△ 41	29	71	9,940	9,937	△ 2	39	42
社 債	64,812	65,057	244	741	496	57,153	57,406	252	576	323
外国証券	1,003	1,012	9	19	10	603	604	1	3	2
うち 投資信託	17,801	21,168	3,366	3,595	229	20,319	23,882	3,563	3,897	334
うち そ の 他	601	715	114	114	－	598	684	85	85	－
合 計	135,789	143,040	7,250	8,243	992	137,723	145,237	7,514	8,364	850

（注）平成19年9月末の「評価差額」および「含み損益」は、平成19年9月末時点の帳簿価額（償却原価法適用後、減損処理後）と時価との差額を計上しております。

銀行勘定における金利リスクに関する事項

（単位：百万円）

運 用 勘 定			調 達 勘 定		
区 分	金利リスク量		区 分	金利リスク量	
	平成19年3月末	平成19年9月末		平成19年3月末	平成19年9月末
貸 出 金	5,870	5,575	定 期 性 預 金	2,622	2,594
有 価 証 券 等	4,869	4,989	要 求 払 預 金	1,185	1,215
預 け 金	508	520	そ の 他	－	－
コールローン等	－	－	調 達 勘 定 合 計	3,807	3,809
そ の 他	18	8			
運 用 勘 定 合 計	11,265	11,092			
銀行勘定の金利リスク	7,458	7,283			

（注）1. 銀行勘定における金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの（例えば、貸出金、有価証券、預金等）が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。当金庫では、金利ショックを過去5年間の金利変動より算出し銀行勘定の金利リスクを算出しています。

2. 要求払預金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される要求払預金のうち、引き出されことなく長期間金融機関に滞留する預金をコア預金と定義し、当金庫では、流動性預金残高の50％相当額を、平均2.5年間滞留すると仮定してリスク量を算定しています。

3. 銀行勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定しています。

銀行勘定の金利リスク（72億83百万円）＝運用勘定の金利リスク量（110億92百万円）＋調達勘定の金利リスク量（－38億9百万円）

自己資本の充実の状況（基本的項目に係る細目を含む）

平成19年3月末に比べて貸出金が減少し、リスク・ウェイトの低い国債及び預け金等の残高が増加したことによるリスク・アセット圧縮効果があったため、分母であるリスク・アセットは平成19年3月末比29億24百万円減少して2,503億93百万円となりました。これに対し分子である自己資本額は当期純利益7億21百万円の計上等により8億27百万円増加し459億30百万円となりました。この結果、平成19年9月末の自己資本比率は、平成19年3月末の17.80%から0.54ポイント上昇して18.34%となりました。

（単位：千円）

科 目	平成19年3月末	平成19年9月末
出 資 金	1,115,892	1,116,006
利 益 準 備 金	1,115,892	1,115,892
特 別 積 立 金	41,800,000	42,521,286
次 期 繰 越 金	266,150	266,150
処 分 未 済 持 分（△）	－	－
「基本的項目」計（A）	44,297,935	45,019,335
一 般 貸 倒 引 当 金	805,414	911,457
補完的項目不参入額（△）	－	－
「補完的項目」計（B）	805,414	911,457
他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額	1,000,000	1,000,000
控 除 項 目 不 参 入 額（△）	△ 1,000,000	△ 1,000,000
「控除項目」計（C）	－	－
「自己資本額」計(D)=(A)+(B)-(C)	45,103,349	45,930,793
資 産（オン・バランス）項目	233,801,154	230,981,302
オフ・バランス取引項目	2,121,834	2,017,596
オペレーショナルリスク相当額を8%で除して得た額	17,394,344	17,394,344
「リスク・アセット」計（E）	253,317,334	250,393,244
自己資本比率(D)／(E)×100	17.80%	18.34%

（注）「信用リスクに関する業種別のエクスポージャー」「銀行勘定における金利リスクに関する事項」「自己資本の充実の状況」につきましては、平成19年3月から新BIS基準にて算出していることから平成19年3月末との比較としております。



HOTLINE 2007



〒395-8611 長野県飯田市本町一丁目2番地
TEL.0265(22)4321
ホームページ <http://www.iidashinkin.co.jp/>

しんさんは、環境に優しい取り組みを地元のみなさまとともにしています。